

道路に係る建設資材毎の現状・課題について

建設資材名			資材毎の主な現状・課題
	主な規格	構成原材料	
コンクリート	生コンクリート (18-18-25など)	・セメント ・骨材(砕石、砂など)	<p><価格></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業等共同組合法に基づく共同組合により共同販売 ・生コンクリートの価格は近年上昇傾向 <p><需要・供給></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生コンクリートの出荷量は年々減少、平成2年と比較し約4割に減少 ・1工場当たりの年間出荷量は地方において低位(2万m³以下) ・生コンクリートの製造企業数と工場数は年々減少し、平成14年と比較すると約75%に減少 ・工場集約化により輸送が遠距離化し、90分以内での供給不能地域が発生 ・セメント、骨材とも、ほぼ国内で生産 <p><輸送></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材運搬コストの上昇 ・PC橋の工場は全国で59地点、合計80万m³以上のコンクリート製品生産能力 <p><品質・施工></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者機関による全国統一の品質管理監査制度 ・プレキャスト化の推進、コンクリート舗装の推進
アスファルト	再生アスファルト混合物(密粒度13など)	・ストレートアスファルト ・骨材(砕石、砂など) ・再生骨材(使用済のアスファルト舗装を原料として利用・製造されるもの)	<p><価格></p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格は近年上昇し、再生材、新材ともt当たり1万円前後で推移 ・ストレートアスファルト及びアスファルト合材の価格は、国際情勢の影響を受ける原油価格に連動。但し、アスファルト合材価格は連動していない場合もある <p><需要・供給></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト合材の生産量は年々減少し、平成4年度と比較し約5割に減少。稼働率は約4割に低下 ・アスファルト合材の生産工場は年々減少し、平成3年度と比較し約6割に減少 ・アスファルト合材の搬送時間は概ね1時間30分以内、搬送距離は20~30km圏内 ・需要の減少により生産性が低下し、プラントの運営が厳しい地域もあり、今後、搬送不能地域の発生の恐れ ・ストレートアスファルトの製造はほぼ大手3社、海外輸入はごく一部 <p><輸送></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材運搬コストの上昇 ・砕石の出荷量は年々減少、事業所も平成11年と比較して約8割に減少 <p><品質・施工></p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生合材の比率が年々高くなっており、平成30年には約75%
鋼材	H形鋼 (SS400など) 異形棒鋼 (SD295A D13など)	・鉄鉱石	<p><価格></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋼材の価格は海外需要等に伴い変動が激しい <p><需要・供給></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の粗鋼生産は横ばいで推移、普通鋼材の生産はやや減少 ・土木分野における鋼材の需要量は減少傾向 ・道路橋(鋼橋)の受注実績は平成7年と比較し、大幅に減少(近年は20万トン及び3,000億円程度) ・道路橋(鋼橋)の受注のうち、保全工事が年々増加 ・全国40地点に鋼橋の製作工場、年官生産能力は約40万トン <p><輸送></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材運搬コストの上昇 <p><品質・施工></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高強度ケーブルや塗装寿命延長鋼などの新技術活用 ・ICT技術活用による省人化の取り組み

<需要・供給>

- ・コンスタントな事業量
- ・発注の平準化、資材調達を考慮した発注
- ・特殊車両の迅速な許可

<契約・積算>

- ・適時適切な積算

<品質・施工>

- ・技術開発の推進(資材、施工性、輸送等)